

CONTENTS

文化人の本音 河合肇雄文化庁長官対談・第49回 ゲスト 北原保雄さん●(独)日本学生支援機構理事長

日本語の微妙なところを意識してほしい	4
長官コラム 文化庁の抜穴	9

いきいきミュージアム 美術館・博物館事業レポート 49	
福岡アジア美術館	18
芸術文化の風 13	
在外研修とドマー二展(野口玲一)	19
著作権Q&A 『著作権なるほど質問箱』から 13	
私の「作品」を他人に利用させる場合、どうすればいいの?	20
言葉と暮らし 1	
言葉と暮らしを見つめる	21
伝建地区を見守る人々 伝建歳時記 25	
船主集落における神仏信仰(石川興加賀市)	22
くらしが育む文化的景観 1	
日本の文化的景観	24
関西発、広げよう「文化力」の輪! 1	
「文化力」の可能性 これまでとこれから	26
風を呼ぼう、わが町に 登録有形文化財建造物との歩み 25	
松山の古くて新しい顔 登録文化財建造物めぐり	27
地域からの「文化力」発信 13	
須坂市の伝統文化こども教室の取組	28
日本の伝統美と技を守る人々 重要無形文化財保持団体編 1	
重要無形文化財 久米島紬	30
国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法 文化財鑑賞の手引き 37	
鑑真和上像と古代の肖像彫刻	31
祭り歳時記 伝承を支える人々 1	
長浜曳山祭の曳山行事(滋賀県長浜市)	32
文化庁の星 1	
アイヌ文化振興専門官	33
文化ボランティア全国フォーラム2006	34
文化庁月報平成17年度総目次	36
文化庁ホームページに『子ども文化教室』がオープン	39
文化審議会に諮問「文化芸術の振興に関する基本的な方針の見直しについて」	40
京都国立博物館	
特別展覧会「大絵巻」展 国宝「源氏物語絵巻」「鳥獣戯画」など一堂公開	41
奈良国立博物館	
御遠忌800年記念特別展 大勧進 重源 東大寺の鎌倉復興と新たな美の創出	41
九州国立博物館	
開館記念特別展「美のシリーズ」第3弾「うるま ちゅうら島 琉球」展	42
国立国際美術館	
特別展 シグマー・ボルケ展 不思議の国のアリス	42
国立西洋美術館	
ロダンとカリエール	43
奈良文化財研究所 飛鳥資料館	
春期特別展 キトラ古墳と発掘された壁画たち	44

連載

文化庁コース

イベント案内

文化振興における民間の役割

寄稿

平成一八年度の文化庁重点施策

施策紹介

特集 平成一八年度の文化行政の重点的な取組

福原義春

16

10

今月の
表紙

平成17年度(第9回)
文化庁メディア芸術祭アニメーション部門大賞
『浮楼』 榊原澄人
©榊原澄人

新国立劇場スボットライト45
5月の国立劇場46
芸術文化振興基金ニュース47
題字デザイン 桑山弥三郎

日本語の微妙なところを意識してほしい



問題な日本語

河合 最近の日本語ブームには、どうい
う背景がありますか。

北原 日本人は日本語、言葉について興
味のある民族だと思います。漢字を中心
にして、音と訓があって、いろんなこと
を考えさせてくれるのが日本語です。例
えば、「学」という言葉ですと、「入学」
がある、「進学」がある。学校に入るこ
とだ、学校に進むことだというようなこ
とですね。その反対に「退学」は、学校
を退くことだとか……。

河合 怠ける「怠学」もある(笑)。

北原 そうですね。そういうので、知ら
ず知らずに言葉を考えるような言葉に
なっている。日本人もそういうことが
あって、言葉に関心が深いんじゃないか
と思うんです。

最近、非常に問題な言葉が氾濫してい
る。氾濫するにも理由があります。一つ
は、変な言葉をつくる側がいること。そ
れから、それが広がるような社会構造に
なっていること。昔は、変な言葉という

のは、仲間内だけでしゃべっていたから、
変じゃなかったんですよ。

河合 そうそう。それは僕らが子どもの
ころでもありました。

北原 ところが、今はそれがテレビに
ポツともち込まれて、仲間内から外に出
るような状況がある。そうしますと、「何
だ、あれは」と気にしたり怒ったりする
人が出てくる。

河合 それから、まねする人。両方出て
くる。

北原 そうなんです。それで、本当に良
識のある人や言葉について真剣に考えて
いる人は「あれは変だ、問題だ。だけど、
どこがどうしてなのかわからない」とい
うので、私の本が売れると(笑)、こうい
う構造なんです。

河合 しかしね、売れるってことは、そ
れだけみんな関心をもっているわけです。
そうでなかったらそんな買わないでしょ
う。それにしても、テレビの影響力とい
うのは大きいですね。

北原 テレビは、おもしろおかしい番組
が多く、芸能人の若い人たちがグルに

なってるでしょう。あれは仲間の中で
はいいいんですけど、あれを放送されちゃ
まずいんですよ。

河合 しかも、みんながまねしたすとね。

北原 ですから私は、テレビが悪いのな
らテレビを使って、少しでも正しい日本
語を意識してもらうために、まじめに日
本語について関心をもってもらおうと思
い、日本語のクイズ番組を始めたんです。
これで全部よくなるわけじゃないけども、

関心をもってもらって、日本語の微妙な
違いとか、正用と誤用の微妙なところを
意識してもらおうと思ってるんです。テ
レビが罪滅ぼしすべきだというわけです。

河合 確かに僕らの中学、高校のときで
も、無理に変なもの言い方をして、み
んなで喜んでました。それは自分らだけ
で、卒業したらやめますよね。ところが、
それが今は流行になったり、しかも大人
までまねしたりしますね。

北原 自分のキャラをつくらうと思って、
わざと変な言葉を発明してるのもあるん
です。

でも、ある面で、変な言葉がばんばん

きたはら・やすお 新潟県出身。

文学博士。研究テーマは日本語の歴史・
日本語文法。和光大学助教授を経て、昭
和59年筑波大学教授。文芸・言語学系
長、附属図書館長を歴任し、平成10年
学長に就任。16年より現職。国語審議
会委員、文化審議会副会長(国語分科会
長)、第17・19期日本学術会議会員、大
学設置・学校法人審議会大学設置分科会
委員、大学基準協会副会長など歴任。
編著に『概説日本語』(朝倉書店、1995)、
『明鏡国語辞典』(大修館書店、2003)、
『問題な日本語 どこがおかしい? 何
がおかしい?』(大修館書店、2004)、
『達人の日本語』(文芸春秋、2005)など。
第2回佐伯国語学賞(昭和45年度)受賞。



ね(笑)。

言葉と以心伝心

河合 世代間の言葉が違ってからコミュニケーションに支障を来すということがあるというんですが、どうですかね。

北原 今は核家族で、おじいちゃん、おばあちゃんと孫と一緒に生活してない。今の子どもたちは、先生と親と友達しかなくて、近所がないわけです。コミュニケーションが非常に狭い。ほとんどの時間が子どもと一緒にいるから、さっきの仲間言葉だけになっちゃうんです。

河合 しかも、友達いうても横ばっかり。僕らのときは年齢の違う者が一緒にいたでしょう。

北原 結局、言葉が問題になるのは、異集団、違った集団との接触のときですね。仲間の中ではどんな言葉を使ってもいい。もつといえは以心伝心で、「なっ」「おっ」と言ってるわけですね。ところが、ほかの人とつき合うとそうはいかなくなる。そこでコミュニケーションができませんという問題が起きてくると思うんです。

出てくるというのは、言葉に活力があるということ、悪いことだとは思いません。新しい言葉というのは、結構新鮮な響きがあるんですね。それをあまりいうと、私は何か「問題な日本語」容認派だと、マスコミにいわれちゃいますね。私はそういうときに、「私は文化審議会国語分科会の元会長なんだ。そんな問題な言葉の容認派であるはずがない」と言うんです(笑)。問題な言葉はどういうことをいいたいのかということ丁寧になざると、容認派のように見えてくるんですね。

河合 問題な言葉が主流になるとか、そっちのほうがカッコいいとなるとちょっと困る。それと、みんなが正しいのを知らなくなってしまうのは困りますね。

実際の言葉はずれている

河合 先生は字引をつくられるときに、国語の先生方と一緒に話をされて、いろいろおもしろいことがあったでしょう。

北原 『明鏡国語辞典』というのをつかったんですけども、辞書というのは

規範を示すものです。正しい意味、用法を解説するんですけど、それだけではなくて、実際の言葉はずれてるわけですね。そのずれてるところも取り上げて、ここはどういう点がおかしい、だけでも非常に多くの人が使っているとか、そういうところにも解説を延ばしていくようにつくったんです。

河合 それがおもしろいですね。

北原 この前も、「とんでもありません」とか、「とんでもございません」は間違いだというんです、学者さんはね。「とんでもない」というのは、「とんでもある」と言えないじゃないか。「とんでもある」と言えないなら、「ある」のところが「ありません」とか、「ございません」と直すのはまずいと。



おじいちゃんおばあちゃんもそうですし、世代間だけじゃなくて、横でもボランティアとか、あるいはインターンシップとか、そういうところでほかの世界に行つて、緊張してしゃべるような機会があると、もつとしつかりとした言葉が育つんじゃないかと思うんです。

言葉と人間の距離

北原 高校の先生よりも、小学校、中学校の先生に注文があるんですけれども、子どもの次元に下がって会話をしましょう。あれはよくないと思いますね。「おまえら、集まれ」とか言ってるでしょう。

河合 そうそう。それから、同じ言葉でやってます。

北原 やっぱ先生は敬遠される立場に

河合 「とんでもない」しかない。

北原 どうしたらいいかというと、「とんでもない」は切っちゃいかん。「とんでもないこと」でございます」が正しいというんですけれど、そんなこといっても、今の世の中、「とんでもないこと」でございます」なんて回りくどいことを言っている人がどこにいますか。

河合 「全然すばらしい」という言い方をする人があるでしょう。普通は「全然」とか、「まったく」は否定ですね。肯定に使い出したですね。これはどうですか。

北原 これはただけですね。ただ、歴史を調べますと、明治のころは肯定とも呼んでいるんです。

河合 あ、そうですか。明治時代に。

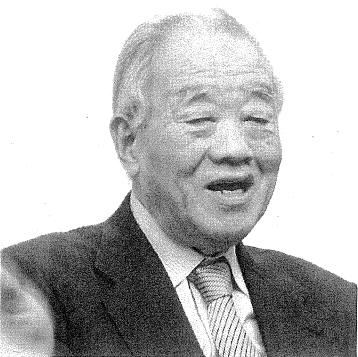
北原 ですから、昔は肯定と呼応する「全然」というのが大いにあったんです。ところが、最近では「全然」は否定と呼応する。肯定と呼応するのは「断然」です。「断然」と「全然」を間違ってるんじゃないか。言葉は変わるものですが、今のところはやっぱり「全然いい」というのはよくないですね。「全然悪い」です

いなきやいけないんで、優しいけども厳しいというのでないともずいぶんじゃないかと思うんです。そうしないと、「ついでこない」というんですが、それは優しさが足りないからですよ。

河合 それは大事なことでいいですか。現場の先生に「私はもう生徒と一緒です」と言われたんで、「あなた、一緒ですか。そしたら授業料払ってください」と言ったんですよ。向こうはお金払って、あなたはもらってんの、なんで一緒やと。絶対違わないといかんわけ。

北原 私には小学校の教室に立つても、そういう言葉は使えないですね。だいたいい、「おまえら」とは言わないで、「皆さん」と言うと思うんです。「です・ます」を抜いてるでしょう。あれはほんとに子どもの次元に下がっちゃってるんですね。

河合 僕はカウンセラーとして、子どもに会うでしょう。難しいですけど、僕は、相手が小学生でも中学生でも、初めは丁寧な言葉を使います。「どうぞおかけください」という調子です。そして、ね、中学生が「大人扱いしてもらって



た」と言っていました。子どもまで大人として頑張らないかんという気になってくるんですよ。

北原 先生は、相手と自分との距離を考えて、言葉を使うべきだと思うんです。考えずに彼らの視線まで下りれば、理解してもらえると勘違いしてるんじゃないですかね。

河合 人間の距離の問題というのが、今はものすごく難しいんです。昔は距離を身分で全部決めてたんです。そうすると、今度はそれだけ盾にとっついていばるやつが出たりするから、それはまた問題やっただんです。今は必要な距離とか、その距離を表現する言葉はどうかとかいう意識が消え過ぎたんじゃないかな。

北原 なくなっちゃっているんですね。縦の距離と横の距離と同じことなんですがね。

河合 そうそう。両方ありますね。北原 敬語を使うのは距離を保つてということですから、親しくなったら敬語はとっていいわけです。高く保つか、横に離して保つかの違いがあっても同じこ

となんです。

河合 そうそう。

北原 その機能をもっと身につける、頭で理解するのではなくて、ちゃんと実行できるような先生であってほしいですね。敬語の使えない人は野卑で、野暮で、いけないんじゃないですかね。

日本の敬語は確かに難しいけど、そんなに複雑に覚えなくても……。

河合 やたらにつけることもないし。

北原 そうなんです。ですから、聞く耳はもっている、自分の使う敬語は単純にしておいていいと思うんですけども、それさえできないというのは、日本人として失格ですね。

書き言葉への懸念

河合 日本の言葉はいろいろ変化していきんですが、書き言葉まで変わっていくんじゃないかな。

北原 みんなが書く時代になっていきますからね。これからは使える単語が非常に少なくなり、語彙も乏しくなる。また、文の長さも短くなる。そういう話し言葉

の不完備な表現に、書き言葉が一致して

いくんじゃないかと心配ですね。述語を最後まで言わない。「あんたどうしたの」と聞くと、「私、文化庁に……」とそこ

までで、「行ってきました」とまでは言わない。あとは相手に想像してくれですね。

河合 確かに話し言葉では省略しますよね。それを書き言葉にまで……。それはメールの影響が大きいですか。

北原 それもあるでしょうね。携帯メールなどは、スペースが狭いですから、話し言葉以上に短くなって、足りない分は絵文字なんかを使って補いますからね。「文章というのは行間を読んだ。携帯には行間がない」と、どなたか言っていましたけど。それから手紙を書かなくなりましたしね。

これから注意しなければならないのは、個人も、日本全体も、語彙を豊かにすることですね。それとしっかりと詳しく丁寧に述べるような長さが言葉に保たれていかなければいけないと思います。

河合 そのためには、やっぱり読書が大事なんですかね。昔に比べると、学校の

先生が本を読まれないと思いますが。

北原 昔は、読んで「おもしろいよ、あの本は」と語ってくれた先生がいました。「もうあれは泣けるよ」と言う、全員とまではいなくても、読む子がたくさんいましたね。

河合 私は、忙しかったことのマイナス面として、学校とか、家庭に物語がなくなっただけでいいんです。

北原 おっしゃるとおりですね。

河合 命令は短いセンテンスでしょう。

報告も短いでしょう。命令と報告があつて、物語がないんです。先ほどの「あれはおもしろかった。泣けたよ」というのは、完全に物語でしょう。

北原 命令は行動をいざなっているわけですし、報告は何かやってきたことを報告するだけですからね。日本中に余裕を振りまかないと、文化は廃れますね。

河合 学問の「スコラ」は、「暇」という意味でしょう。本来は、余裕からきているんですね。

重要文化的景観

文化庁の抜穴 河合隼雄

とする態度の表れとして、非常にうれしいことである。

市長をはじめ住民代表の皆様とお話しをして、何につけても開発優先のような風潮の中で、努力を重ねてこの景観を守ってこられた苦勞の程を知り、頭の下がる思いがした。相対的な対立や葛藤を乗り越えてこそ、今日のすばらしい景観がある、と敬意を表したいと思う。今後、文化的景観を考える人たちに、とって、大いに参考となる話であった。

このように文化的景観を国としても重視することになったのは、我が国の文化ということにより広い視野から捉え、大切にしていこう

◆長官対談◆

【文化人の本言】河合肇雄文化庁長官対談
伊藤京子 声楽家
【長官コラム文化庁の抜六】

◆特集◆

独立行政法人国立美術館の歩み

【有識者提言】

独立行政法人国立美術館の五年間と今後の課題
【寄稿】

再出発する国立美術館 ……陰里鉄郎
【事例紹介】

独立行政法人化後の運営―開かれた美術館を目指して
開かれた美術館へ

国立西洋美術館の歩み
万博公園から中之島へ 国立国際美術館の再出発

国立新美術館の開館に向けて
【施策紹介】

独立行政法人国立美術館の五年間の評価と次期中期目標期間に向けて

◆文化庁ニュース◆

九州・沖縄から文化力

ほか

◆連載◆

【いきいきミュージアム美術館博物館事業レポート】
徳島県立博物館

【芸術文化の風】
オーケストラと指揮者

【著作権O&A】著作権なるほど質問箱から
登録の種類と効果、手続き

【言葉と書物】
外来語総集編

【伝建地区を見守る人々 伝建地時記】
姫野市塩田津伝建地区

【くらしが育む文化的景観】
台地とため池に生きる

【関西発 広げよう「文化力」の輪！】
関西経済連合会が取組

【風を呼ぼう、わが町に 登録有形文化財建造物との歩み】
地域活力を呼び覚ます 鹿児島県の登録文化財めぐり

【地域からの文化力発信】
文化芸術による創造のまち支援事業

【日本の伝統美と技を守る人々】
佐々木信平・石盤部

【国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法】
染織品のみかた

【祭り歳時記 伝承を伝える人々】
日立風流物

【文化交流使の活動報告】
神田山陽・談話師

ほか

文化庁月報 4月号 (通巻451)

平成18年4月25日印刷・発行

編集——文化庁

〒100-8959 東京都千代田区丸の内2-5-1

発行——株式会社 きょうせい

本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12

本部 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16

電話 編集 03 (3571) 2126

販売 03 (5349) 6666

URL : http://www.gyosei.co.jp

印刷所——ぎょうせいデジタル株式会社

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価540円 [本体514円] 送料76円

年間購読料6,480円

本誌のご購読のお申し込みは、直接弊社の本・支社、あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

広告の問い合わせ・申し込み先

(株) きょうせい営業部広告課

電話03 (5349) 6657 (ダイヤルイン)

©2006 Printed in Japan ISSN 0916-9849

本誌は本文に再生紙・大豆油インキを使用しております。

編集後記

春到来。

今年度も「文化庁月報」では、文化に対する興味・関心を高めていただけるよう、最新の情報を提供していきたいと思えます。

そこで今年度は、祭や景観といった身近なテーマで新たな連載を取り上げるほか、「文化庁の星」では、職員紹介をおしてさまざまな分野にわたる文化庁の仕事をおしやすしく紹介していく予定です。

昨年度は、公立図書館、大学等で読者モ

ニターを実施し、少しでも多くの人に知ってもらえるような取組や、「イベント案内」のチケットプレゼントを開始したところ、皆様にご好評いただいたので、今年度も引き続き実施します。アンケートにもお答えいただき、奮って応募ください。

新たな気持ちで、皆様のもとと身近な雑誌になり、文化で日本を元気にできるようながんばっていききたいと思います。

(政)

美術館・博物館チケットプレゼント

今月号の展覧会等のチケットプレゼントは、

A 九州国立博物館

「うるま ちゅら島 琉球展」

3組 (ペア)

B 国立西洋美術館

「ロダンとカリエール」

3組 (ペア)

です。ご希望の方はアンケートハガキのチケット応募欄に必要事項をご記入のうえ、4月25日(火)までにご投函ください(当日消印有効)。

*チケット発着をもって当選発表にかえさせていただきます。

文化庁では、ホームページで、文化庁に関する情報を幅広く提供しています。ご意見、文化庁月報の感想などを、ホームページのご意見欄へお寄せください。

●ホームページアドレス●

http://www.bunka.go.jp